

Kitami Institute of Technology

北見工業大学

学報

平成15年 5 月 事務局総務課発行 第197号

平成15年度入学式



(関連記事 5 ページに掲載)

目 次

平成15年度入学式	告辞.....	3
	平成15年度入学式挙行.....	5
入試関係	平成16年度編入学学生募集要項（一般選抜）.....	6
	平成16年度編入学学生募集要項（社会人特別選抜）.....	7
研究助成	平成15年度文部科学省在外研究員決定.....	8
	平成15年度科学研究費補助金交付内定.....	8
	新工エネルギー・産業技術総合開発機構	
	平成14年度産業技術研究事業費助成金交付決定.....	11
	平成15年度 向科学技術振興財団助成金交付決定.....	11
	平成15年度民間等との共同研究の受入状況.....	11
	平成14年度奨学寄附金の受入状況.....	13
	平成15年度奨学寄附金の受入状況.....	13
人 事	住所変更等、海外渡航.....	14
受 賞	青木 清教授、日本金属学会谷川・ハリス賞を受賞.....	15
諸 報	北見工業大学永年勤務者表彰式及び文部科学省永年勤続者表彰伝達式.....	16
	林 義男元教授に名誉教授称号授与.....	16
	厚谷郁夫名誉教授に高等学術研究員を委嘱.....	16
	国立大学法人化に関する全学説明会.....	17
規 程	北見工業大学非常勤研究員取扱要項の一部を改正する要項 （北工大達第21号）.....	17
	北見工業大学奨学基金要項の一部を改正する要項（北工大達第22号）.....	18
日 誌	3月・4月.....	19

住所変更等については4月22日まで掲載しました。

= 平成15年度入学式 =

告 辞「毎日の積み重ねが未来を築く」

学長 常 本 秀 幸

北見工業大学学部、大学院への入学を心より歓迎いたします。

本年度は、学部学生、編入学生、大学院博士課程全体で599人が入学しております。特に、大学院への進学率が上昇しており、高度技術者を目指す学生が増加してきたことは、本学の活性化に大きな力になるのではないかと期待しております。また、本年度は中国、マレーシア、バングラデシュ、モロッコ、エジプトなどから学部、大学院合わせて22人の新たな留学生を迎えており、留学生にはこの地域との国際交流、本学学生との交流も進めてもらいたいと思います。

本学の入学者の特徴は、本州からの学生が毎年増大していることです。昨年は50%でしたが、今年は56%が本州出身者になりました。日本最北端の国立大学である北見工業大学が、このように全国から注目されるようになったことを大変うれしく思っております。桜の咲いている地域から来た方も多く、雪がまだ残っているのに驚いているかもしれませんが、4月中旬には雪も消え、5月には桜が咲き、北見の特徴である「青い空、白い雲、輝く太陽」が君たちを歓迎してくれます。

英語で、1年生のことをフレッシュマンと言います。フレッシュの第一義は「若々しい」と訳されていますが、「活気がある」という意味もあります。本年度のフレッシュマンの中には18歳のフレッシュマンから、博士後期課程に社会人で入学される57才の方まで、フレッシュの中身に違いがあっても本学の「活力」になってもらえることを期待しております。また、本学に入学しエンジニアを目指すからには、次の3つの心を持ち続けてもらいたいと思います。

その一つは、「もの創り」などの工学を志す心、「工学の心、工学心」と言う新しい言葉を作りました。日本は小型化、高性能化に代表されるもの作りで発展してきましたが、近年、生産コストの安い地域にもの作りの中心が移り始めております。しかし、日本の活力はやはり「もの創り」です。従来の量産型のもの作りではなく環境と調和した「もの創り」など、新しい視点での「もの創り」が求められておりますので、この「もの創り」の心を持ち続けて下さい。

二つ目の心は好奇心です。子供の頃は、何にでも疑問を持ち親を悩ませていたのですが、年齢と共に人に「聞か」なくなり、そして「聞け」なくなってきました。君達がこれから受ける授業、実験などで「なぜ、どうしてだろう」と言う疑問を持つことが重要です。疑問があればまず自分で調べること、わからなければどんどん質問して下さい。そこで得た知識は、やがては知恵となり、これが、発想力、創造力を生み出す源になります。また、自分の専門分野に閉じこもると視野が狭いエンジニアになりますので、若いうちは色々な分野に「好奇心」のアンテナを張り巡らせ、果敢に挑戦してみてください。

もう一つは学問を志す心、いわゆる向学心です。近年、大学に入ることを目的とする学生が増え、日本の大学の活力がなくなってきたと言われています。大学への入学は目的ではなく、次の飛躍への手段です。大学での教育は1時間の講義に対して2時間の学外学習が求められており、それを想定して取得単位数、時間割が組まれています。しかし、家庭学習の時間をアルバイトの時間と勘違いをしている学生もおります。学問は一步進むごとに興味も広がってきま

すので、向学心を持って大学生を送り、学部から大学院、博士課程に進学することを目標にしてください。

国立大学は今、明治以来の改革に向かって歩み始めており、平成16年の4月、1年後には法人化組織になることがほぼ決定しております。大学の管理運営などに民間的発想を取り入れることが求められており、教育研究が効率主義に陥り、基礎研究などが疎かになるのではないかなどとの指摘があります。これらへの配慮を十分に行ないながら、改善すべきことがら早期に改善する必要があります。今回の改革では、教育研究などの取組みが外部機関から評価を受けますので、教育研究の質は確実に向上いたします。従って、君達は良い時期に入学したと言えますが、先生方の熱意に応えられる意気込みがなければ、教育効果は半減します。

明日からの講義では、工学の基礎とグローバル化に対応できる教養教育が中心となり、学年が進むと共に専門教育と実験・実習、卒業論文などを通して問題解決能力の養成を目指しています。その先には創造性を持った高度技術者を養成するための大学院が待っています。現在大学院進学率が35%程度ですが、君達が卒業する頃は40%近くに増大させたいと思っています。一方、これからの大学には、卒業時の学生の質の保証が求められ、学生にも厳しい評価が行なわれますので、勉学に励まなければ4年間での卒業が厳しくなる場合があります。「鉄は熱いうちに打て」と言われます。鍛えることによっていくらかでも強くなれるのが若さです。努力を惜しまないことです。

これらの教育研究の充実・発展のために、キャンパス環境の整備も進めております。現在建設中の建物は、本学の目玉テーマであるメタンハイドレートと言う新しいエネルギーを研究する未利用エネルギー研究センター、および今後の高齢化社会に対応した福祉支援システムを中心とした教育研究を推進するベンチャー・ビジ

ネス・ラボラトリーが主として利用します。また、地域共同研究センター、機器分析センター、情報処理センターなども充実しており、研究支援体制が整ってきました。一方、教育環境の整備も計画しておりますので、君達は恵まれた教育研究環境の中で大学生を送ることができます。

さて、この3月末に始まったイラクでの紛争は、現在も続いており決着の方向が明確ではありません。早期の決着を望みますが、21世紀の日本の立場、日本の国家安全保障を考える大きな出来事でもあります。国連が中心の世界平和の枠組みが維持できるのかどうか、国家を守るの力は力しかないのかなど考えさせられる出来事です。ただ、21世紀のグローバル社会においてもまだこのような紛争が続くのは情けないことです。この「青い地球」を後世に伝えるための知恵は人間にあるはずで、これは、これからの社会を作りあげる君達にも課せられた課題です。

明日からの大学生活の中では、技術者としての素養を身に付けることは当然ですが、国際感覚を持ち、グローバル社会で活躍できる社会人を目指してください。毎日の積み重ねが君達の、そして世界の未来を築きます。目標を高く持ち、それに向かって努力を惜しまず、有意義な大学生活を送られんことを願って告辞と致します。

平成15年度入学式挙行

(総務課)

平成15年度入学式が、4月4日(金)午前10時から本学講堂で行われました。

学長から、学部434人、学部編入学11人、大学院博士前期課程134人及び大学院博士後期課程20人の入学が許可された後、学長告辞、入学生代表宣誓及び役職員紹介が行われ、式は無事終了しました。

なお、入学者数は次のとおりです。

学部

学 科 名	入学者数(人)
機械システム工学科	85
電気電子工学科	83
情報システム工学科	65
化学システム工学科	63
機能材料工学科	57
土木開発工学科	81
合 計	434

学部編入学

学 科 名	入学者数(人)
機械システム工学科	5
電気電子工学科	1
情報システム工学科	2
化学システム工学科	0
機能材料工学科	1
土木開発工学科	2
合 計	11

大学院博士前期課程

専 攻 名	入学者数(人)
機械システム工学専攻	26
電気電子工学専攻	14
情報システム工学専攻	14
化学システム工学専攻	22
機能材料工学専攻	24
土木開発工学専攻	34
合 計	134

大学院博士後期課程

専 攻 名	入学者数(人)
システム工学専攻	15
物質工学専攻	5
合 計	20

= 入試 =

(入学主幹)

平成16年度編入学学生募集要項

平成15年6月5日(木)まで

午後5時必着

学科及び募集人員

学 科	募 集 人 員		備 考
	推薦による 選 抜	学力試験に よる選 抜	
機械システム工学科	10人	若干名	募集人員については、推薦及び学力試験において可能な限り多数受け入れることとする。
電気電子工学科			
情報システム工学科			
化学システム工学科			
機能材料工学科			
土木開発工学科			

推薦による入学者の選抜

1 出願資格

高等専門学校を平成16年3月卒業見込みの者

2 推薦基準

出身学校長が責任を持って推薦できる者で、次の各号に該当する者

- (1) 3年次及び4年次の学業成績の平均が、原則として現員の上位1/3以内の者で、人物、学業ともに優れ、本学での勉学意欲にあふれる者
- (2) 席次を定めていない場合は、上記(1)と同等以上であると出身学校長が認めた者
- (3) 他大学に重複して推薦されていない者

3 志望学科

高等専門学校で在学している学科と必ずしも同系列でなくてもよいが、その場合、本学での修業年限が2年を越えることがある。

4 出願書類等受付期間

平成15年6月2日(月)から

5 出願手続 略

6 選抜方法

推薦による入学者の選抜は、出身学校長から提出された調査書、推薦書及び健康診断の結果を総合して行う。ただし、本学が必要と認めた場合や、志望学科が高等専門学校で在学している学科と同系列でない場合は、面接を行う。

(1) 面接(該当者のみ)

平成15年6月11日(水)

(2) 健康診断 略

7 合格発表

平成15年6月18日(水)

午後4時予定

学力試験による入学者の選抜

1 出願資格

- (1) 短期大学・高等専門学校を卒業した者及び平成16年3月卒業見込みの者
- (2) 学校教育法第82条の10に規定する専修学校の専門課程を修了した者及び平成16年3月修了見込みの者
- (3) 外国において、学校教育における14年の課程を修了した者

2 出願書類等受付期間

平成15年6月26日(木)から

平成15年7月2日(水)まで

午後5時必着

3 出願手続 略

4 選抜方法

学力試験による入学者の選抜は、学力検査、面接、出身学校長から提出された調査書及び健康診断の結果を総合して行う。

(1) 学力検査等期日

平成15年7月9日(水)

(2) 学力検査日程(各学科共通)

8:40～9:50 物理

10:00～11:10 数学

11:20～12:30 英語

13:30～15:30 専門科目

15:40～ 面接

(3) 学力検査科目

各学科共通科目 物理、数学、英語

各学科専門科目

学 科	専 門 科 目
機械システム工学科	材料力学、熱力学、流体工学
電気電子工学科	電気磁気学、電気回路理論
情報システム工学科	情報数学、コンピュータサイエンス基礎
化学システム工学科	物理化学、有機化学、無機化学、分析化学、化学工学の5科目から1科目選択
機能材料工学科	物性物理、物理化学、有機化学の3科目から1科目選択
土木開発工学科	構造力学、水理学、土質力学

5 合格発表

平成15年7月16日(水)

午後4時予定

編入学の年次

編入学の年次は、3年次となる。ただし、学科によっては、1・2年次に開講される専門科目の一部を履修させることがある。

入学時に要する経費

入学料 282,000円(予定額)

授業料(前期分) 260,400円(予定額)

【年額520,800円】

入学時及び在学中に納付金の改定が行われた場合には、改定時から新たな納付金が適用されます。

平成16年度編入学学生募集要項
社会人特別選抜

学科及び募集人員

学 科	募 集 人 員
機械システム工学科 電気電子工学科 情報システム工学科 化学システム工学科 機能材料工学科 土木開発工学科	各学科とも若干人

出願資格

入学時において企業等に正規の職員として2年以上在職中で、在職のまま入学することができ、所属長からの推薦がある者で、次のいずれかに該当する者

(1) 理工系の高等専門学校を卒業した者

(2) 理工系の短期大学を卒業した者

(3) 大学・学部の理工系学科を卒業した者
又は大学・学部の理工系学科に2年以上在学し、62単位以上を取得し退学した者

出願書類等受付期間

平成15年6月2日(月)から

平成15年6月5日(木)まで

午後5時必着

出願手続 略

選抜方法

入学者の選抜は、個人面接、調査書、推薦書、志望調書及び健康診断の結果を総合して行う。

(1) 面 接 平成15年6月11日(水)

(2) 健康診断 略

合格発表

平成15年6月18日(水)午後4時予定

編入学の年次
編入学の年次は、3年次となる。ただし、
学科によっては、1・2年次に開講される専
門科目の一部を履修させることがある。

入学時に要する経費
入学料 282,000円（予定額）
授業料（前期分）260,400円（予定額）
【年額520,800円】

入学時及び在学中に納付金の改定が行われ
た場合には、改定時から新たな納付金が適用
されます。

= 研究助成 =

平成15年度文部科学省在外研究員決定

長期(甲種)

(総務課)

所 属	職 名	氏 名	派遣先国	期 間	研 究 課 題
機械システム工学科	助教授	鈴木聡一郎	イギリス	16.3.31 ~17.11.30	歩容変化に適応可能なパッシブ制御大 腿義足に関する研究

平成15年度科学研究費補助金交付内定

基盤研究(A) (2)海外学術調査

(総務課)

所 属	職 名	氏 名	研 究 課 題	交付内定額	新規	継続
未利用エネルギー 研究センター	教 授	庄子 仁	オホーツク海におけるメタンハイドレート の採取および総合解析による産状研究	17,680千円 (平成16年度 2,100千円) (平成17年度 2,400千円)		

内定額中、4,080千円については間接経費

基盤研究(B) (1)一般

所 属	職 名	氏 名	研 究 課 題	交付内定額	新規	継続
共通講座	教 授	大野 晃	農山村における内発的発展と環境保全	2,800千円 (平成16年度 2,900千円) (平成17年度 1,600千円)		

基盤研究(B) (1)海外学術調査

所 属	職 名	氏 名	研 究 課 題	交付内定額	新規	継続
化学システム工学科	教 授	吉田 孝	漆の植物資源としての持続的循環活用シス テム - 調査と構築	1,800千円		

基盤研究(B) (2)一般

所 属	職 名	氏 名	研 究 課 題	交付内定額	新規	継続
情報システム工学科	助教授	原田 康浩	レーザー放射圧と自己組織化現象を用いる 3次元フォトニック結晶創成法の開発と応 用	4,300千円 (平成16年度 2,300千円)		

所 属	職 名	氏 名	研 究 課 題	交付内定額	新規	継続
電気電子工学科	教 授	山城 迪	インテリジェント機能付きPV-ECSシステムの開発	2,400千円		
機能材料工学科	教 授	青木 清	反応分離型水素製造要素としての新規水素透過合金膜の合金設計と組織制御	3,500千円 (平成16年度 3,500千円)		

基盤研究(B) (2)海外学術調査

所 属	職 名	氏 名	研 究 課 題	交付内定額	新規	継続
共通講座	教 授	照井日出喜	現代ドイツの演劇状況に関する芸術社会学的研究	1,800千円 (平成16年度 1,900千円) (平成17年度 1,900千円) (平成18年度 2,200千円)		

基盤研究(C) (1)一般

所 属	職 名	氏 名	研 究 課 題	交付内定額	新規	継続
化学システム工学科	教 授	鈴木 勉	金属との複合化による木質由来炭素の高・多機能化 - メソ細孔を有する高結晶炭素の製造	1,000千円 (平成16年度 800千円)		

基盤研究(C) (2)一般

所 属	職 名	氏 名	研 究 課 題	交付内定額	新規	継続
電気電子工学科	助教授	菅原 宣義	冬季日本海沿岸季節風による海塩汚損と着雪によるポリマーがいしの絶縁特性	500千円		
土木開発工学科	教 授	高橋 修平	南極表面質量収支における積雪再配分効果の研究	700千円		
情報システム工学科	教 授	山田 浩嗣	単純楕円型特異点と附随する周期写像のLie環論的構成	1,400千円		
機械システム工学科	助 手	宮越 勝美	凍結路面のスリップ防止に散布されたピリ砂利の噴流を用いた高性能回収システムの開発	1,000千円		
情報システム工学科	教 授	鈴木 正清	信号源定位のためのデジタル信号処理	1,200千円 (平成16年度 500千円)		
土木開発工学科	教 授	鮎田 耕一	熱的挙動分析に基づく海洋コンクリートの凍害機構に関する研究	800千円		
土木開発工学科	教 授	海老江邦雄	STI値を指標とする凝集沈澱と強化ろ過との併用による浄水処理の高効率化	1,300千円		
機能材料工学科	教 授	松田 剛	遷移金属酸化物系ナノ多孔体の合成とアルカン異性化反応に対する触媒特性の検討	1,000千円 (平成16年度 700千円)		
化学システム工学科	教 授	堀内 淳一	プロテオーム解析に基づくリジン発酵の解析と最適化	500千円 (平成16年度 500千円)		
情報システム工学科	教 授	藤原 祥隆	双対空間の因果関係に着目した自己組織化・自己適応化型知識データベースシステムの研究	800千円 (平成16年度 600千円)		

所 属	職 名	氏 名	研 究 課 題	交付内定額	新規	継続
機能材料工学科	助教授	伊藤 英信	ライムケーキの低温固化とシックハウス原因VOC除去機能の評価	3,500千円 (平成16年度 300千円)		
機器分析センター	助教授	南 尚嗣	海底堆積中メタンハイドレートの定量方法	1,600千円 (平成16年度 2,200千円)		
機械システム工学科	教 授	田牧 純一	ロータリダイヤモンドドレッサの機上修正によるドレッシング性能の安定化	2,400千円 (平成16年度 900千円)		
電気電子工学科	教 授	田村 淳二	風力発電機を含む電力系統の過度安定度および安定化制御に関する研究	1,900千円 (平成16年度 1,400千円)		
機能材料工学科	助教授	阿部 良夫	サーファクタントを用いた貴金属スパッタ薄膜の構造制御	1,800千円 (平成16年度 1,100千円)		
土木開発工学科	教 授	大島 俊之	橋梁のインテリジェント化とスマートモニタリングの実用化による維持管理技術の開発	1,700千円 (平成16年度 1,800千円)		

萌芽研究

所 属	職 名	氏 名	研 究 課 題	交付内定額	新規	継続
機械システム工学科	教 授	佐々木正史	海水成長における溶存メタン濃縮過程および排出過程の研究	1,200千円 (平成16年度 100千円) (平成17年度 200千円)		

若手研究(B)

所 属	職 名	氏 名	研 究 課 題	交付内定額	新規	継続
共 通 講 座	助教授	小川 芳樹	数量詞と束縛代名詞の分析に基づく普遍文法の解明	800千円		
情報システム工学科	助 手	嘉田 勝	実数の集合論とその応用	800千円 (平成16年度 800千円)		
情報処理センター	助教授	青山 茂義	11Liのペアリング、ソフトダイポール、クラスター励起機構の解明	300千円 (平成16年度 300千円)		
情報システム工学科	助 手	酒井 考和	インポートランスサンプリングのターボ符号への適用に関する研究	1,100千円 (平成16年度 900千円)		
化学システム工学科	教務職員	服部 和幸	超分子構造を利用した高強度・高弾性率を有する新規セルローズ繊維の開発	800千円 (平成16年度 800千円)		
情報システム工学科	助教授	渡辺 文彦	リーマン・ヒルベルト問題の観点に立ったパウルヴェ超越函数の解析的研究	1,600千円 (平成16年度 600千円)		
情報システム工学科	助 手	原田 建治	アゾベンゼン高分子薄膜を用いたホログラム窓の開発	2,200千円 (平成16年度 700千円) (平成17年度 500千円)		
機械システム工学科	助教授	閻 紀旺	単結晶フッ化カルシウムの超微細溝切削による高精度フレネルレンズの加工	2,000千円 (平成16年度 1,700千円)		
土木開発工学科	助 手	中村 大	岩石の凍上メカニズムの解明及び岩石の凍上判定試験方法の確立	1,000千円 (平成16年度 500千円) (平成17年度 500千円)		

所 属	職 名	氏 名	研 究 課 題	交付内定額	新規	継続
機能材料工学科	助 手	石川 和宏	ミリングによるNiTi基合金のナノ結晶化・非結晶化とガラス遷移域での固化成形性	2,000千円 (平成16年度 700千円) (平成17年度 900千円)		
未利用エネルギー 研究センター	助教授	八久保晶弘	ガスハイドレート多孔質体の生成・解離過程と力学特性	3,200千円 (平成16年度 600千円)		

新エネルギー・産業技術総合開発機構
平成14年度産業技術研究事業費助成金交付決定

(総務課)

所 属	職 名	氏 名	研 究 課 題	交付金額
電気電子工学科	助教授	武山 眞弓	ULSIにおける置換型複合窒化合金バリアを用いた一体型極微細Cu配線に関する研究	千円 4,628

平成15年度 向科学技術振興財団助成金交付決定

(総務課)

所 属	職 名	氏 名	研 究 課 題	交付金額
機能材料工学科	助 手	石川 和宏	非平衡プロセスにより作製したTiNi基アモルファス合金の水素透過性	千円 1,500

平成15年度民間等との共同研究の受入状況

(総務課)

所 属	職 名	研究代表者	研 究 題 目	民間機関等名
土木開発工学科	教 授	鈴木 輝之	寒冷地における多数アンカー式補強土壁の凍上対策工法に関する研究	岡三リビング(株)
電気電子工学科	助教授	柏 達也	大型計算機を使った車載アンテナ特性に関する研究	(株)本田技術研究所 栃木研究所
土木開発工学科	助教授	櫻井 宏	寒冷地コンクリート構造物の品質向上のための施工情報評価モデルと欠陥防止対策の検討	(株)西村組
化学システム工学科	教 授	多田 旭男	大気中二酸化炭素還元固定化システム用メタン接触分解プロセスの基盤技術開発	鹿島建設(株)
化学システム工学科	教 授	多田 旭男	DME脱硝触媒に関する基礎研究	日本鋼管(株)
土木開発工学科	教 授	大島 俊之	低温下のゴム支材内部温度分布の研究	(株)ブリヂストン
化学システム工学科	教 授	堀内 淳一	嫌気性消化汚泥の効率的コンポスト化に関する研究	北見市企業局

所 属	職 名	研究代表者	研 究 題 目	民間機関等名
化学システム工学科	助教授	伊藤 純一	北見市廃棄物処理場より排出される溶融スラグをリサイクル原料とするエコ・コンクリート製品の製造とその性能および環境影響評価	山上マテック(株)
機能材料工学科	教 授	増田 弦	北見市における下水汚泥・放流水中の微量成分の長期モニタリングに関する研究	北見市企業局
機能材料工学科	教 授	増田 弦	美幌町における下水汚泥・放流水中の微量成分の長期モニタリングに関する研究	美 幌 町
機能材料工学科	教 授	高橋 信夫	斜里町における環境試料(下水汚泥・放流水)中の微量環境有害成分の定量に関する長期的研究	斜 里 町
化学システム工学科	助教授	高橋 行雄	留辺蘂町における下水汚泥・放流水中の微量有機・無機成分の長期モニタリングに関する研究	留 辺 蘂 町
機器分析センター	助教授	南 尚嗣	紋別市における下水汚泥・放流水中の有害微量成分の定量に関する長期的研究	紋 別 市
化学システム工学科	助教授	高橋 行雄	下水汚泥及び放流水から発生する臭気成分の定量に関する研究	北見市企業局
機能材料工学科	助教授	宇都 正幸	農業用資材梱包用ポリマーの耐寒性試験研究	ホクレン包材(株)
化学システム工学科	助教授	山田 哲夫	カラマツ活性炭の連続生産に関する研究	訓子府石灰工業(株)
土木開発工学科	教 授	海老江邦雄	寒冷地における水道水の高効率処理に関する研究	北見市企業局
土木開発工学科	教 授	海老江邦雄	寒冷地における下水汚泥の有効利用に関する研究	留 辺 蘂 町
土木開発工学科	教 授	海老江邦雄	下水汚泥土壌中の肥効成分の定量に関する研究	斜 里 町
土木開発工学科	教 授	海老江邦雄	寒冷地における下水汚泥の有効利用に関する研究	北見市企業局
土木開発工学科	教 授	海老江邦雄	北見市における水道事業マスタープランの策定研究 - しんせいき水道整備ビジョンの策定 -	北見市企業局
土木開発工学科	教 授	海老江邦雄	寒冷地における下水汚泥の有効利用に関する研究	美 幌 町
機能材料工学科	教 授	高橋 信夫	バイオガスの有効利用に関する研究	北見市企業局
情報システム工学科	教 授	藤原 祥隆	ヒヤリング記録からの知識の可視化	リコーシステム開発(株)
機械システム工学科	教 授	二俣 正美	環境対応機能皮膜の開発	北 辰 土 建 (株)
機械システム工学科	教 授	二俣 正美	溶射プロセスの高度化に関する研究	(株)倉本鉄工所
機械システム工学科	教 授	二俣 正美	金属/ガラス複合皮膜の開発	(社)北見工業技術センター
化学システム工学科	助教授	伊藤 純一	北見市一般廃棄物処理に関する環境調査並びにゴミ質調査、作業環境調査研究	北 見 市

所 属	職 名	研究代表者	研 究 題 目	民間機関等名
情報システム工学科	教 授	藤原 祥隆	e-ラーニングによる情報化研修システムの開発	北 見 市
留学生教育相談室	教 授	山岸 喬	食品中の微量成分の機能性に関する研究	(株)絵夢企画セルフイー
化学システム工学科	助教授	伊藤 純一	北見市環境調査研究	北 見 市
化学システム工学科	助教授	伊藤 純一	常呂川水系水質調査研究	常呂川水系環境保全対策協議会
土木開発工学科	教 授	高橋 修平	氷掘削装置開発に関する基礎的研究	(株)地球工学研究所

平成15年度計 33件

平成14年度奨学寄附金の受入状況

(会 計 課)

所 属	職 名	研究者	寄 附 目 的	寄 附 者	寄附金額 円
未利用エネルギー 研究センター	助教授	八久保晶弘	「工学研究」に対する研究助成	八久保晶弘	200,000
電気電子工学科	教 授	田村 淳二	「工学研究」に対する研究助成	田村 淳二	200,000
土木開発工学科	教 授	大島 俊之	「工学研究」に対する研究助成	(株)ドーコン	2,000,000
土木開発工学科	助教授	川村 彰	「工学研究」に対する研究助成	(株)ドーコン	1,050,000
土木開発工学科	教 授	鈴木 輝之	「工学研究」に対する研究助成	(株)ドーコン	500,000
電気電子工学科	助教授	菅原 宣義	「工学研究」に対する研究助成	(株)振興電気	500,000
	学 長	常本 秀幸	「北見工業大学における学術振興・国際交流等事業」に対する助成	北見工業大学学術振興・国際交流等事業を支援する会	49,430
	学 長	常本 秀幸	「学生の進路指導、大学説明会等の事業推進」に対する助成	北見工業大学学生後援会	1,000,000

平成14年度累計 102件

平成15年度奨学寄附金の受入状況

(会 計 課)

所 属	職 名	研究者	寄 附 目 的	寄 附 者	寄附金額 円
化学システム工学科	助教授	伊藤 純一	「ゴルフ場開発による常呂川水質調査・研究」に対する研究助成	北海道指導漁業協同組合連合会	500,000
機能材料工学科	教 授	高橋 信夫	「貴金属触媒の基礎的研究」に対する研究助成	田中貴金属工業㈱	500,000
機能材料工学科	助 手	石川 和宏	「非平衡プロセスにより作製したTiNi基アモルファス合金の水素透過性」に対する研究助成	石川和宏 (財)向科学技術振興財団	1,500,000
化学システム工学科	教 授	堀内 淳一	「工学研究」に対する研究助成	堀内淳一 (財)国土技術研究センター	1,500,000

平成15年度計 4件

= 人事 =

海 外 渡 航

外国出張

所 属	職 名	氏 名	渡 航 目 的 及 び 渡 航 先 国	期 間
機能材料工学科	教 授	松 田 剛	第9回日韓触媒シンポジウムに参加及び 発表 (大韓民国)	15.5.13 ~ 15.5.17
化学システム工学科	助 教 授	岡 崎 文 保	第9回日韓触媒シンポジウムに参加 (大韓民国)	15.5.13 ~ 15.5.18
電気電子工学科	助 教 授	川 村 武	工学応用と計算アルゴリズムに関する 第3回DCDIS国際会議に参加及び発表 (カナダ)	15.5.14 ~ 15.5.19
化学システム工学科	教 授	小 林 正 義	第10回金融市場予測国際会議に出席、第6 回イタリア化学工学国際会議に出席及び 発表、第4回土壌、地形、地図情報国際会議 に出席(フランス共和国、イタリア共和国)	15.6.4 ~ 15.6.21

海外研修

所 属	職 名	氏 名	渡 航 目 的 及 び 渡 航 先 国	期 間
機能材料工学科	助 教 授	阿 部 良 夫	第203回 Meeting of The Electrochemical Society 出席及び研究発表 (フランス共和国)	15.4.25 ~ 15.5.4

= 受賞 =

青木清教授 日本金属学会谷川・ハリス賞を受賞

(機能材料工学科)

機能材料工学科の青木清教授は2003年3月に千葉大学で開催された日本金属学会春期大会において「金属間化合物 Ni_3Al の延性化と非平衡相の生成に関する研究」で日本金属学会谷川・ハリス賞を受賞し、賞記と賞牌(銀メダル)を授与された。また、同会で「金属間化合物の延性化と水素誘起アモルファス化」と題する受賞講演を行った。谷川・ハリス賞は高温における金属学の基礎的分野または工業技術分野の発展に貢献する、優れた研究業績を上げた研究者に授賞される権威ある賞である。同賞の受賞は同教授のみならず、本学にとっても大きな名誉である。

同教授の研究業績は多岐にわたるが、金属間化合物 Ni_3Al の延性化と水素誘起アモルファス化に関する研究が白眉であり、世界的に知られている。前者に関しては、Ni基超合金の主要な構成相である Ni_3Al に微量のホウ素(B)を添加すると粒界破壊が抑制され、室温で劇的に延性化することを1978年に発見した。金属間化合物が延性化することを実証し、高温構造材料として有望なことを示したもので、金属研究史に

残る業績と評価されている。後者に関しては、水素吸蔵によりアモルファス化する金属間化合物の組成と結晶構造、アモルファス化の過程、支配因子と機構およびアモルファス化した合金の物性や構造を系統的に調べ、水素誘起アモルファス化(HIA)の本性を解明しつつある。HIAは結晶からアモルファスへの、通常とは逆方向の相変態と言う点で学術的に興味深いばかりでなく、実用の観点からも重要な現象である。何故ならば、HIAが起こると水素吸蔵合金の寿命が短くなり、また最初から起こると水素は非可逆的に吸蔵・放出されて、水素吸蔵合金として使用出来ないからである。HIAの機構を解明し、その防止策が分かれば、水素吸蔵合金の長寿命化や新規水素吸蔵合金の開発に対して、有用な指針が得られるものと期待されている。

青木教授は水素社会の到来に備えて、燃料電池用の水素を精製する水素透過精製合金や水素を安全かつ簡便に貯蔵する水素吸蔵合金の開発研究を行っているが、今回の受賞を励みとして、一層の成果を上げることを期待したい。

= 諸報 =

北見工業大学永年勤務者表彰式及び 文部科学省永年勤続者表彰伝達式(退職時表彰)

(総務課)

平成14年度北見工業大学永年勤務者表彰式及び文部科学省永年勤続者表彰伝達式(退職時表彰)が、3月31日(月)午前10時から学長室において行われました。

本学永年勤務者表彰の被表彰者、教務課課長補佐 落井清治氏、附属図書館運用係長 立石進氏の両氏に対し、学長から表彰状の授与並びに記念品が贈呈されました。引続き、文部科学省永年勤続者表彰の被表彰者、附属図書館事務長 金崎幸彦氏に対し、文部科学大臣からの表彰状の伝達並びに記念品が贈呈されました。



林 義男元教授に名誉教授称号授与

(総務課)

4月16日開催の教授会において、元教授の林義男氏に対して、4月1日付けで名誉教授の称号を授与することが決定されました。

厚谷郁夫名誉教授に高等学術研究員を委嘱

(総務課)

厚谷郁夫名誉教授に、4月14日付けで高等学術研究員を委嘱しました。

国立大学法人化に関する全学説明会

(総務課)

4月28日(月)午後3時から、C122講義室において教職員を対象とした「国立大学法人化に関する全学説明会」を開催しました。

説明会には150人を超える参加者があり、常本学長から国立大学法人法の概要、法人化に向けたスケジュール、中期目標・中期計画の骨格等についての説明がありました。

引続き、質疑応答が行われ、活発な意見交換が行われました。



= 規程 =

北見工業大学非常勤研究員取扱要項の一部を改正する要項

平成15年5月9日
北工大達第21号

北見工業大学非常勤研究員取扱要項(平成13年北工大達第27号)の一部を次のように改正する。

第9項を第10項とし、第3項から第8項までを1項ずつ繰り下げ、第2項中「非常勤職員」を「一般職の非常勤職員(講師)」に、「講師(研究機関研究員)」を「一般研究員は講師(研究機関研究員)、SVBL研究員は講師(中核的研究機関研究員)」に改め、同項を第3項とし、第1項の次に次の一項を加える。

(定義)

第2 この要項において、次の各号に掲げる用語の意義は、それぞれ当該各号に定めるところによる。

- 一 一般研究員 非常勤研究員経費に基づき任用される非常勤研究員をいう。
- 二 SVBL研究員 大学院教育充実支援経費(ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー経費)に基づき任用される非常勤研究員をいう。

附 則

この要項は、平成15年5月9日から実施する。

改正理由

本学サテライト・ベンチャー・ビジネス・ラボラトリーにおける非常勤研究員の取扱いを定めるための所要の改正

北見工業大学奨学基金要項の一部を改正する要項

平成15年 5月29日
北工大達第 22号

北見工業大学奨学基金要項（昭和61年北工大達第14号）の一部を次のように改正する。

別表を次のように改める。

別表

寄 附 者	受 入 年 度	寄 附 金 額
佐々木 満 雄 氏	昭和 46 年度	70,000 円
松 本 秋 男 氏	昭和 46 年度	300,000 円
小 池 東一郎 氏	昭和 59 年度	300,000 円
25周年実行委員会	昭和 60 年度	800,000 円
棟 徹 夫 氏	昭和 62 年度	300,000 円
笹 木 ミ 工 氏	昭和 63 年度	200,000 円
生 駒 武 氏	平成 元 年度	100,000 円
林 正 道 氏	平成 2 年度	300,000 円
松 原 睦 哉 氏	平成 5 年度	100,000 円
金 山 公 夫 氏	平成 11 年度	500,000 円
厚 谷 郁 夫 氏	平成 14 年度	500,000 円
赤 塚 陽 子 氏	平成 14 年度	500,000 円
佐 藤 充 典 氏	平成 15 年度	300,000 円

附 則

この要項は平成15年5月29日から施行する。

改正理由

新たな寄附金受入れに伴う所要の改正

= 日誌 =

(総務課)

- | | | | |
|------|---|------|-------------------------------|
| 3月1日 | ガスハイドレート研究及び関連トピックス国際ワークショップ(～2日) | 4月1日 | 前期授業開始(2年次以上)
入学者選抜委員会 |
| 3日 | 学年末休業日(～31日) | 2日 | 第660回教授会 |
| 5日 | 第658回教授会
第132回研究科委員会
入学者選抜委員会 | 4日 | 平成15年度入学式
学生後援会総会 |
| 6日 | 学生委員会
前期日程合格発表 | 7日 | 大学院専攻主任会議
新入生ガイダンス(編入生を含む) |
| 10日 | 留学生交流の夕べ | 8日 | 人事委員会
前期授業開始(1年次) |
| 11日 | 第13回独立行政法人化問題ワーキンググループ | 9日 | 総務委員会 |
| 12日 | 後期日程入学試験 | 10日 | 学生委員会
教務委員会 |
| 13日 | 総務委員会
学術振興・国際交流基金運用委員会 | 15日 | 入学者選抜委員会 |
| 14日 | 人事委員会
第9回再編・統合問題ワーキンググループ
教務委員会 | 16日 | 第661回教授会
第134回研究科委員会 |
| 17日 | 網走支庁管内大学間の単位互換締結式
平成14年度北見工業大学学生表彰式 | 17日 | 第15回独立行政法人化問題ワーキンググループ |
| 19日 | 第659回教授会
第133回研究科委員会
入学者選抜委員会 | 22日 | 学生委員会
施設専門委員会 |
| 20日 | 後期日程合格発表 | 25日 | 第6回大学改革特別委員会 |
| 25日 | 学位記授与式 | 28日 | 国立大学法人化に関する全学説明会
開学記念日振替 |
| 27日 | 第14回独立行政法人化問題ワーキンググループ | 30日 | 情報システム運営委員会 |
| 31日 | 文部科学省永年勤続者退職時表彰伝達式及び北見工業大学永年勤務者表彰退職者表彰式 | | |



この学報は再生紙を使用しています。